

学院交流会開催される

学院交流会は、学生相互の理解を深めるために毎年春と秋に行われている行事です。春はスポーツ大会、秋は学科紹介を行います。学科紹介は、学生が2つの班に分かれてすべての学科を順番にまわり、自分の在籍する学科以外の学科について授業内容などを見学して理解を深めあうものです。各学科での説明も学生が行います。今年は11月5日金曜日に開催されました。

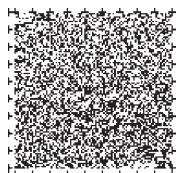
各学科の見学は15時頃から始まりました。ひとつの学科で15分ほどの説明を受け、次の学科へと移動します。学生達は日頃知ることができない他の学科の授業内容の説明に真剣に聞き入っていました。

説明を行う側では、自分達が学んでいる内容をどのようにわかりやすく説明するかという点について知恵をしばり、ゲーム形式をとりいれたり体験してもらったりと、工夫をこらしていました。準備の段階では苦労もあったようですが、たいへん貴重な体験をしたようです。

学科の見学を終えたあとは教職員も交えての懇親会が行われ、学生同士あるいは学生と教職員の交流が深まりました。以下、学生からの声を報告いたします。

言語聴覚学科（ST）1年 鈴木章吾

入学して半年あまり...ST学科の私たちは自宅と4Fフロアの往復の日々でした。同じ敷地内で毎日を過ごしているにもかかわらず、他学科のフロアに足を踏み入れたことはほとんどありません。先日の学院交流会では他学科の毎日や勉強内容を楽しみながら知ることができました。RBの点字の説明、POの義肢装具の製作実演、SIの手話の伝言ゲーム、RSのリハ機材や車イスの説明、我がSTは高次脳機能障害や聴力検査の説明、どの学科の説明ともバラエティに富み、初めて知るものばかりで新鮮でした。



また夜に行われた懇談会では他学科の多くの学生の方と交流を深めることができました。

今までは他学科は近いようで遠い存在でしたが、勉強内容や目標はリハビリテーションというものでつながっていると感じました。交流会を通してそれぞれの学科の特質や専門性を知ることができ、有意義で刺激のある1日でした。



聴力検査デモンストレーション

義肢装具学科（PO）2年 山田陽太

普段、私たちPO学科は学院棟から離れたところで授業を受けているため、学生交流会はPO学科がどのようなことを学んでいるのかを知ってもらい、また他学科のみなさんの様子を知るための貴重な行事です。特に一年生は初めての交流会なので楽しみにしていました。

PO学科は3年生が装具の製作工程を実演し紹介しました。実演後には「義足はどうやって作るのですか?」などいろいろな質問があり、PO学科について関心を持ってもらえたと思います。また他学科の紹介は多種多様でした。特にSI学科の伝言ゲームは、言葉を使わずに身振り手振りで伝えるというもので、耳が聞こえない人に自分の伝えたい事を理解してもらう難しさを実感しました。

各学科それぞれ学ぶことは異なりますが、同じリハビリテーション関連の専門職を目指す仲間として、これからも交流をしながら共に頑張っていこうと思います。



プラスチック装具製作の実演

視覚障害学科（RB）1年 田伏久士

今回の学科交流会でRB学科は、点字を紹介させて頂きました。点字とは触覚で読むことができるように、縦3点・横2点の6つの凸点を組み合わせる文字体系とした、視覚障害者のための文字です。点字は歴史も古く先人が考案した優れた文字なのですが、限られた時間の中で他学科の方にそのすばらしさを伝えることはできたでしょうか。

私たちRB学科の学生は、リハビリテーションに興味を持ち、医療・福祉のプロを目指して学んでいる者ばかりですが、そんな私たちでさえ、他学科ではどんなことを勉強し、将来どんな仕事をするのか



点字器で点字を打つ体験をする参加者

ということをあまりよく知りません。今回の交流会は、他学科の勉強内容を学び、その専門性の高さを知るいい機会になりました。

これからの医療・福祉は、患者さんや障害を持つ方々に対して、さまざまな専門職が連携し合って治療やリハビリテーションを行なわなければなりません。他学科の学生や先生方と、理解や交流を深めることができたことが一番の財産になりました。

手話通訳学科（SI）1年 三好祐子

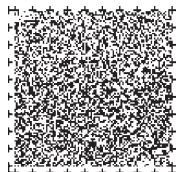
学院生活において、他学科と授業を共にする機会はほとんどありません。そのため、各学科の見学ができる学院交流会を、ずっと楽しみにしていました。普段なかなか見ることのできない装具作成の様子に歓声をあげたり、点字タイプライターで自分の名前を打つてみたり、とても貴重な体験ができました。

また、手話通訳学科では、手話での伝言ゲームを行いました。伝えてもらったのは、形です。相手が示す形を覚えて、それを次の人に伝えるだけなので、簡単そうに思えます。しかし実際は、左右が逆になってしまったり、四角が違う形になって伝わってしまったりと、みんな四苦八苦していました。

手話で説明することの難しさはもちろん、相手にきちんと伝わっているか確認するための頷きやアイコンタクトの大切さも実感してもらえたと思います。



手話による伝言ゲーム



リハビリテーション体育学科 (RS)

1年 岡崎可奈子、下溝麻里奈

各学科がどのような勉強をして

いるのか、各フロアを見学しながら

説明を受けることで、その専門領域について正確に知ることができました。リハビリテーション体育学科は合同授業があるため、学年や学科の垣根を越えて交流の機会があります。他学科の教室でお世話になることもある私たちですが、知っているようで知らなかった各学科の雰囲気や専門知識を、楽しく、分かりやすく知ることができ、新鮮でとても魅力的な時間を過ごすことができました。

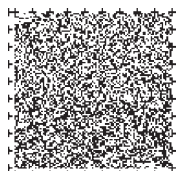
RS学科の紹介では、リハビリテーション体育についてパネルで説明した後、実際に教室や機器の説明を行いました。筋・関節機能測定実習室をはじめ、心肺機能測定実習室では、運動負荷試験概論等の授業で使用する車いす用トレッドミルや自転車エルゴメータについて、運動学習実習室では、スポーツや

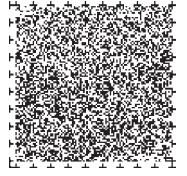
日常生活で使用する様々な種類の車いすを紹介した後、実際に車いすに乗りながら操作法を解説しました。

これを機に他学科との交流をいっそう深め、切磋琢磨し合いながら専門性を高めていきたいと思いません。



車いす操作法の説明





「ヒラマサ」

元更生訓練所理療指導室長 川政 勲

ヒラマサはアジ科の魚で、ブリに大変よく似た魚です。本州以南、世界中の温帯・亜熱帯域に分布し、沿岸から沖合に生息します。

最大2メートル、20キロを超える大物で、味もブリより一段上、姿も良い魚です。

成魚になると横腹に明瞭な黄色線が出ます。ブリも幼魚期にはこの黄色線がありますが、成魚になると殆ど消えます。

ブリもヒラマサも、浮遊性の卵を藻の中に生みますが、孵化した後ブリの子は黒潮に乗って北へ旅をするのに、ヒラマサの子はせいぜい房総半島止まりで、回遊範囲も狭く、大群を作りません。

伊東の重度障害者センターから函館視力障害センターに転勤する準備の荷作りの合間を縫って、義兄と八丈島に釣りに出かけました。

自衛艦と衝突して沈没した大型遊漁船の「富士

丸」が漁師の漁場に入り、私たちが乗った船の船頭に追い出されたというハプニングがありました。

ヒラマサを釣りたいと一生懸命コマセを撒き、「ヒラマサよ来い」と願いましたが、初心の私をヒラマサは嘲笑って、ピクリともしませんでした。

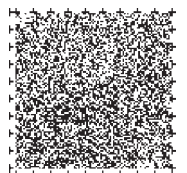
結局私は、カンパチやウメイロ、メジナなどしか釣れませんでした。

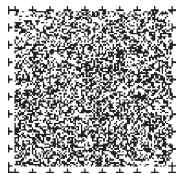
最近ではテレビで磯からのヒラマサ釣りをよく放送しています。「海のダンプカー」とよばれるこの魚の釣りは人気があります。

ヒラマサは刺身として随一ですが、鮨種としても高級品。カマの照り焼きなども格別です。

魚は釣った日より翌日や翌々日の方が味は良いですが、ヒラマサの場合は4日～6日が一番美味でした。

波を追ふ波に色なし大旦 いさお





平成22年度 リハビリテーション実施状況 (11月報告)

1 自立支援局利用者状況

(1) 昼間実施サービス状況 (1日平均)

(単位：人)

課 程		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
自立訓練 (機能訓練)	H.22	25.1	23.8	26.1	25.3	25.6	24.9	27.3	29.5					25.8
	H.21	14.9	17.2	20.9	25.0	24.2	27.4	27.0	26.5	28.0	28.0	26.2	30.9	24.7
自立訓練 (生活訓練)	H.22	10.8	10.8	10.8	10.9	11.0	10.7	11.9	10.0					10.9
	H.21	9.6	9.9	9.1	7.8	6.3	9.8	9.8	9.8	9.4	9.7	10.0	11.0	9.3
就労移行支援	H.22	65.5	77.4	62.5	64.9	69.4	65.7	54.8	53.1					64.0
	H.21	55.3	62.7	56.5	59.8	66.9	70.3	76.8	59.0	66.8	56.8	61.0	42.6	61.0
就労移行支援 (養成施設)	H.22	87.8	95.0	95.0	94.0	93.0	92.7	92.0	90.0					92.4
	H.21	72.7	77.7	76.8	75.5	75.0	75.0	75.0	75.0	75.0	75.0	75.0	59.6	73.8
合 計	H.22	189.2	207.0	194.4	195.1	199.0	193.9	185.9	182.6					193.1
	H.21	152.5	143.6	171.0	176.0	172.3	165.1	188.6	154.1	162.2	153.4	155.8	151.0	168.8

(2) 施設入所支援サービス状況 (1日平均)

		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
施設入所支援	H.22	202.6 (66.4)	215.1 (67.9)	203.8 (68.3)	202.3 (67.2)	209.0 (68.9)	207.6 (68.5)	199.4 (70.6)	187.6 (61.4)					203.5 (67.4)
	H.21	185.3 (69.0)	193.7 (65.5)	187.3 (64.2)	189.6 (62.5)	187.8 (58.4)	198.9 (59.9)	200.6 (59.7)	189.7 (66.8)	194.5 (64.9)	193.0 (72.4)	192.0 (68.2)	184.3 (60.4)	191.4 (64.2)

()は、職業リハビリテーションセンターを利用し、かつ施設入所支援サービスのみを利用している者の内数である。

(3) 独自事業 (1日平均)

		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
自動車訓練	H.22	11.5(4.8)	16.6(10.1)	16.1(8.9)	14.5(8.3)	12.0(4.7)	12.9(5.3)	13.7(7.2)	14.7(8.8)					14.0(7.2)
再理療教育	H.22	0.0	0.9	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0					0.9
臨床研修コース	H.22	1.3	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0	2.7	2.0					2.6

()は、自動車訓練のみ利用している者の数である。

(4) 利用者数計 (1日平均)

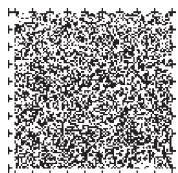
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
支援サービス	H.22	255.6	274.9	262.7	262.3	268.0	262.4	256.5	243.9					260.5
独自事業	H.22	6.0	13.9	12.9	12.3	8.7	9.3	10.8	11.8					10.7
利用者数総計	H.22	261.7	288.9	275.5	274.7	276.6	271.6	267.3	255.7					271.2

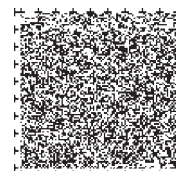
1 「支援サービス」は、「昼間実施サービス」の利用者及び「職業リハビリテーションセンターを利用し、かつ施設入所支援サービスのみを利用している者」の合計数である。

2 「独自事業」は、自動車訓練のみの利用者及び再理療教育、臨床研修コース利用者の合計数である。

2 病院入院患者の状況 (1日平均)

区 分		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
総 数	H.22	115.6	117.1	109.9	95.7	91.8	87.0	85.7	82.3					98.2
	H.21	121.0	107.4	102.5	102.2	107.7	105.3	95.6	88.3	81.6	89.5	100.0	108.3	100.8
一 般	H.22	114.5	116.7	109.0	94.8	90.9	86.4	85.0	82.3					97.4
	H.21	119.4	104.8	100.5	102.1	107.0	105.3	94.7	88.3	81.6	89.4	98.7	108.3	100.0
利 用 者	H.22	1.1	0.5	0.8	0.9	0.9	0.6	0.7	0.0					0.7
	H.21	1.6	2.6	2.0	0.0	0.7	0.1	0.8	0.0	0.0	0.1	1.3	0.0	0.8





3 病院外来患者の状況（1日平均）

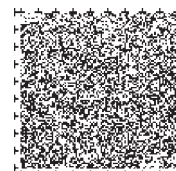
区 分		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
総 数	H.22	142.3	154.1	146.3	151.1	140.8	148.4	144.3	158.4					148.0
	H.21	154.9	162.1	151.0	152.6	147.9	151.5	146.6	145.2	151.5	143.6	135.3	135.7	148.2
一 般	H.22	129.7	142.1	132.5	136.8	128.8	135.7	131.1	145.6					135.1
	H.21	143.0	147.6	138.8	139.7	136.1	137.5	134.0	132.4	139.0	123.2	117.5	113.8	133.6
利 用 者	H.22	12.6	12.0	13.7	14.4	12.0	12.6	13.2	12.8					12.9
	H.21	11.8	14.3	12.2	12.9	11.7	14.0	12.6	12.7	12.5	20.3	17.7	21.9	14.6

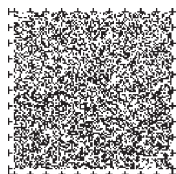
4 見学者の状況（実人員）

区 分		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
医 療	国内	84	206	277	76	433	388	158	120					217.8
	海外	32	54	43	1	0	45	2	15					24.0
教 育	国内	12	96	2	105	37	13	64	143					59.0
	海外	0	0	22	1	26	0	1	5					6.9
福 祉	国内	106	68	88	112	53	125	104	40					87.0
	海外	5	18	33	13	0	19	0	18					13.3
職 業	国内	17	0	14	9	2	15	1	0					7.3
	海外	0	0	1	0	0	0	0	0					0.1
そ の 他	国内	50	42	59	14	21	122	26	21					44.4
	海外	2	2	35	0	1	5	4	3					6.5
うち障害者 （再掲）	国内	9	21	13	34	4	6	36	11					16.8
	海外	0	1	20	0	0	0	0	5					3.3
平成22年度計	国内	269	412	440	316	546	663	353	324					415.4
	海外	39	74	134	15	27	69	7	41					50.8
	計	308	486	574	331	573	732	360	365					466.1
平成21年度合計		332	448	599	387	476	631	355	436	208	371	405	314	413.5

5 学院生の在籍状況（月末現在）

学 科	学 年	人 数
言 語 聴 覚 学 科	1 年	31
	2 年	28
	小 計	59
義 肢 装 具 学 科	1 年	9
	2 年	10
	3 年	8
	小 計	27
視 覚 障 害 学 科	1 年	10
	2 年	4
	小 計	14
手 話 通 訳 学 科	1 年	14
	2 年	10
	小 計	24
リハビリテーション体育学科	1 年	2
	2 年	3
	小 計	5
合 計		129





センターのロゴ

センターのロゴは、国際障害者年を記念し、入所者・職員から募集した作品の中から選定されたものです。

このロゴは、

- 1 リハビリテーションセンターを包む、リハビリに対する強い意欲・意思・たゆまざる努力、そして友情と信頼、
- 2 リハビリテーションセンターを出発点として、未来にまた広く社会各方面に向かって伸びようとする入所者・職員の姿、
- 3 手話の指、点字を読む指、職業、職能、理療に励む力強い5本の手指

をイメージ化したものです。

また、NRCDはNATIONAL REHABILITATION CENTER FOR PERSONS WITH DISABILITIESの頭文字です。

制作者 住田律夫（昭和56年制定）

上のシンボルマークは、WHO（世界保健機関）のマークです。

WHO（World Health Organization）とは、国連の仕事のうち、保健衛生の分野を受け持つ専門機関であり、その目的は、全人類の健康を守るために、世界の国々が力を合わせて努力しようとするものです。

国立障害者リハビリテーションセンターは、WHO指定研究協力センターの指定を受け、国際協力を行っています。

「国リハニュース」編集事務局

国立障害者リハビリテーションセンター管理部企画課

〒359-8555 埼玉県所沢市並木4 - 1

TEL 04-2995-3100 FAX 04-2995-3661

ホームページアドレス <http://www.rehab.go.jp/>

（国リハニュースはホームページに掲載されています）

本誌へのご意見、ご要望等がございましたら、上記編集事務局宛

FAX又は、Eメール（kikakuka@rehab.go.jp）をお寄せ下さい。

